

ESD-J 2024年度 事業報告（案）

<2024年4月1日～2025年3月31日>

I 概要

2024年度は、主としてESD-Jの新たな活動を模索する1年であった。2024年度総会での議論を踏まえ、ESD-J会員に対する発信の強化に努めた。また、財政的な困難が続く中、ESD-Jが推進を試みている生物多様性教育の学校教員への普及の企画提案を行うとともに、民間企業との連携協力を模索することとし、第一歩としてESD-Jの賛助会員であるmont-bell、SOMPO環境財団、王子ホールディングスを訪問し、最近のESD-Jの活動についての報告、さらなる連携・協力について模索するための意見交換を行った。

また、地域における比較的小規模のNGO等の活動を支援するため、(株)パタゴニアの助成を受けて、京都市花脊地域における自然保護・環境教育・地域活性化関係の活動への伴走支援を開始した。さらに、観光業界との連携に関し、一般社団法人「責任ある旅行会社アライアンス：Japan Alliance of Responsible Travel Agencies (JARTA)」との連携を模索し、JARTA会員企業向けの講演を行うとともに、環境・持続可能性研修の可能性を検討した。

それらの努力と並行し、2024年度には、理事会を中心にESD-Jの今後の在り方に関する議論を重点的に行った。理事会では、一度ESD-Jを解散し、情報発信や意見交換を中心とする新たなネットワーク活動を中心とする任意団体の設立の可能性を模索するのが良いのではないか等の意見が大勢を占めたため、広く会員の意見を聴くための会員説明会を開催することとした。いただいた会員からの意見を踏まえ、2025年5月末に予定される理事会で総会への提案を取りまとめ、6月に予定される総会で結論を出すこととしている。

II 人材育成事業

1 オンラインセミナーの実施

(1) 第12回世界環境教育推進会議（WEEC2024）結果報告会

2024年9月18日（水）19:00～20:45にESD-Jオンラインセミナー「第12回環境教育世界会議（12th WEEC）参加報告会」を実施した。

- ・ 司会：鈴木 克徳（ESD-J代表理事）
- ・ 講演者：二ノ宮リム さちさん（立教大学環境学部設置準備室・大学院社会デザイン研究科教授、日本環境教育学会理事・国際交流委員長）
- ・ 報告者：
森 朋子さん（東京都市大学准教授）、棚橋 乾さん（全国小中学校環境教育研究会顧問）、栗島 英明さん・谷田川 ルミさん（お二人とも芝浦工業大学教授）、矢動丸 琴子さん（IUCN-CEC教育・コミュニケーション委員会）、二ノ宮リム 虹さん
- ・ 参加者：27名（司会1名、関係者6名、事務局3名含む）
- ・ 報告詳細：https://www.esd-j.org/report/esd-jseminar_12thweec/

(2) 持続可能な観光と地域社会の活性化

2025年1月31日（金）19:00～20:30に一般社団法人「責任ある旅行会社アライアンス：Japan Alliance of Responsible Travel Agencies (JARTA)」と連携し、ESD-Jオンラインセミナー「JARTAによるサステナブルツーリズムに向けた活動」を実施した。

- ・ 講演者：高山 傑さん（一般社団法人責任ある旅行会社アライアンス（JARTA）代表理

【第1号議案】

事)、渋谷 武明さん (JARTA国際認証部門統括部門長)

- 参加者：17名
- 報告詳細：https://www.esd-j.org/report/jarta_seminar/

関連して、鈴木理事がJARTAの依頼でグリーンキー認証の宿泊施設への環境研修を2024年12月20日に実施するとともに、2025年2月17日のJARTAシンポジウムに参加して講評を行った。また、JARTAからの請負により、グリーンキーに関連する環境法令資料作成を行った。引き続き持続可能な観光の推進とその結果としての地域社会の活性化に向けた連携・協働の可能性を模索する。

(3) 新たな生物多様性の動向に関する研修会

生物多様性国家戦略2023-2030の策定を受け、その内容について学ぶとともに、教育界においてどのような対応が求められるか、何が実施できるかを検討することとしていたが、次年度に延期された。

2 岡山ESDコーディネーター研修事業

- ① 研修の名称：「ESD コーディネーター研修（企画書作成編）～SDGsを視野に入れた地域づくりのために～」
- ② 参加者：受講生 16 名、講師・スタッフ 11 名
- ③ 研修の全体スケジュール：
 - 企画会議
5 月 28 日（火）14:30～16:00 岡山市役所地下 1 階中会議室
 - スタッフ研修会
＜第 1 日目＞8 月 2 日（金）10:00～15:47 岡山市勤労者福祉センター3 階小会議室 A
＜第 2 日目＞8 月 5 日（月）9:37～15:57 岡山市勤労者福祉センター3 階小会議室 A
＜第 3 日目＞8 月 8 日（木）9:41～15:26 岡山市勤労者福祉センター5 階中会議室第 3
＜第 4 日目＞9 月 19 日（木）13:00～16:45 岡山市役所本庁舎 8 階会議室
 - 本研修の準備会合（2 回）
＜第 1 回＞9 月 19 日（木）9:30～11:35 岡山市役所本庁舎 1 階多目的ルーム
＜第 2 回＞10 月 4 日（金）9:30～11:21 岡山市役所本庁舎 1 階多目的ルーム
 - 修了生交流会
9 月 27 日（金）18:33～20:55 岡山市勤労者福祉センター4 階大会議室
 - 本研修
＜第 1 回＞10 月 10 日（木）10:01～16:48 岡山市勤労者福祉センター4 階大会議室
＜第 2 回（個別相談会）＞10 月 24 日（木）10:00～17:00 岡山市勤労者福祉センター4 階大会議室
＜第 3 回＞11 月 8 日（金）10:01～16:53 岡山市勤労者福祉センター4 階大会議室
＜第 4 回＞11 月 25 日（月）10:02～17:00 岡山市勤労者福祉センター4 階大会議室
 - 研修全体のふりかえりと次年度に向けた検討会
1 月 9 日（木）9:30～11:30 岡山市役所本庁舎 1 階多目的ルーム
- ④ 成果：ESD・SDGs の視点をもってプロジェクト・講座の企画ができる人材の育成が出来た（研修生による 17 の企画書も出来た）。研修を担える講師スタッフ人材の育成も進み、持続

【第1号議案】

可能な研修の体制とスタイルが形成出来た。

- ⑤ 課題：本研修では、グループワークなども多く、研修の中で多くの紙類を使用している。今後はDX化をより進めて、いかに研修の質を落とさずに紙類の使用を減らすかに努めたい。そのためにも、現在使用している会場のWi-fi環境が未整備な点についても対処したい。

3 効果的な情報発信の実施

(1) ESD-Jの広報ツールを通じた情報発信

ウェブサイト、Facebook、メルマガ、インスタなどを活用し、以下のようなESD活動に関する国内外の情報等の収集及び発信を行った。

国内外のESD活動に関する情報の収集、整理、発信（3月31日時点）

ア 海外の情報：国連、ユネスコ及び国連大学等国連関係機関並びに海外のNGO、企業等が発信する情報を収集・整理し、メーリングリストで約50件発信した。

イ 国内の情報：国の行政機関、協力団体等全国規模の団体及び地方の団体等が発信する情報で、広く全国に伝えることが有益と考えられるものを収集し、メーリングリストで33回配信した。

4 イベントの主催、実施

(1) 第17回HESDフォーラム

HESDフォーラムは高等教育機関におけるESDを推進するために2007年に開始された高等教育機関のネットワークであり、これまで17回のフォーラムを開催している。現在ESD-Jが全体事務局を務め、第17回HESDフォーラムを千葉商科大学と共催で2024年9月23日（月・祝）9:50～17:00に千葉商科大学市川キャンパスで開催した。

(2) 自治体や企業、他団体との連携で行う事業・活動

自治体や企業等に対する営業活動、連携を探るための活動を実施した。具体的には、賛助会員であるmont・bell、SOMPO環境財団、王子ホールディングスを訪問し、意見交換を行うとともに、さらなる連携の可能性を模索した。

(3) ESD-NET 2030

ESD-NET 2030は、2030年に向けたESDの実施を促すことを目指して、加盟国と関係者の双方を支援するために立ち上げられたグローバルなネットワークであり、2023年12月に東京で開催された第1回ESD-NET Global MeetingにはESD-Jから3名が参加した。その後もESD-Net 2030の活動に関する情報を国内に周知するとともに、オンラインイベントに参加した。

(4) 他団体と協働した人材育成事業の実施

協議会方式のネットワークの運営管理を中心に、環境自治体環境政策研究所が行うインカレSDGsプロジェクトの実施を支援した。

パタゴニアからの助成を受けて、京都府（京都市左京区花脊地域）で活動をしているNGOと連携・協働する事業を実施することとし、2024年度には主として予備的な活動を実施し、2025年3月から正式な活動を開始した。活動内容は、花脊地域における自然共生サイトの認定に向けた提案書の作成、自然観察・自然体験等を含む花脊地域の再活性化に向けたビジョン作成である。2回の対面による予備的な打ち合わせ・関係者との意見交換を実施するとともに、オンラインでの打ち合わせを行った。

また、四国グローバルネットワークとの連携業務として、2025年2月9日（日）に開催された

【第1号議案】

四国ESDフォーラム2025の運営準備の業務を補助すると共に、当日フォーラムに鈴木代表理事と横田事務局長が対面で参加し、鈴木代表理事が「ESD for 2030に向けて拠点が果たす役割」に関する講演、フォーラム全体の総評を述べ、横田事務局長がフォーラムの運営支援を行うなどの貢献をした。

III 政策提言事業

1 提言作成のための意見交換と情報収集

(1) 政策提言に関する学習会の開催

- ① 各地域で活動するESD-Jの会員等の意見を得ながら、市民社会から必要な政策を具体的に提言するための検討を行う。
- ② 人材育成事業であるオンラインセミナーとの連携を検討する。

上記の活動は実施出来なかった。

(2) 国連ESDの10年（DESD）終了後の10年間の成果と課題の総括

2014年にDESDが終了してから10年が経過した。その間に、ESDを巡る状況は大きく変化し、様々な進展がみられた。この10年間における成果と課題について、地域の現場の人たちとの対話を通じて、市民社会としての総括を行い、今後取り組むべき方向性を明らかにするために会員にアンケート、並びにヒアリングを長く支援してくださっている会員4名、賛助団体1団体を対象に実施した。その結果を2025年度初旬に報告書としてまとめ、会員の皆様に共有するとともに、当団体のウェブサイト公開する予定である。

2 環境省・文部科学省など関係省庁への提言活動

(1) ESD/SDGsに関する政策に係るパブリックコメント等への対応

地域生物多様性増進活動の促進に関する基本的な方針案、第7次エネルギー基本計画案、地球温暖化対策計画案、日本のNDC案等に関するパブリックコメントの情報を会員に周知し、それぞれの会員からの意見提出を奨励した。

IV 国際連携事業

1 地域の実践に活かすための海外情報の国内発信

2024年度も引き続き国際MLを通じて国際会議の開催情報、結果情報、その他主要な国際的動向等の情報約50件を発信した。

2 ESDに関するアジアNGOネットワーク（ANNE）の再構築を含む国際的なESDネットワーク活動

ANNE再構築に向けた加盟団体の現状の調査・確認を行うこととしており、インド、インドネシア、韓国と情報交換を行った。

また、UNESCO-UNFCCC等によるウェビナーへの参加、及び国内関係者への情報の周知、参加の呼びかけを行った。

【第 1 号議案】

3 在外邦人による海外におけるSDGs・ESD情報の発信

2023年度から、海外在住の日本人を通じて海外におけるSDGs・ESDへの取組状況に関する情報を発信しており、2024年度にはフランスからの発信を行った。

4 過去にESD-Jの国際事業に関わった方（元理事含む）へのヒアリング

大島順子会員、大前純一会員、二ノ宮リムさち会員等へ、ESD-Jにおける国際連携活動の在り方に関する意見をお聞きすることとしていたが、一部識者がDESD終了後の10年間の成果と課題のヒアリング対象と重なったため、中断している。

5 台湾環境教育学会（CSEE）との交流

2024年5月29日から6月4日にかけて「縣市環境教育人員（環教大使）国際交流学习」と称する総勢27人からなる訪日ミッションが実現した。6月1日に開催された「日本・台湾 小中学校 ESD/環境教育シンポジウム」は、ESD-Jと日本環境教育学会が共催し、60名あまりの参加者を得て活発な意見交換が行われた。シンポジウム後には、約50名の参加を得て、日台の関係者による交流会が開かれた。（詳細：<https://www.esd-j.org/wp-content/uploads/2024/07/adbef6447ac1863aa0dfb64060ca3747.pdf>）

V 運営体制、及び組織基盤強化

1 ESD-J運営体制（2025年度）

役員（理事14名、監事2名、相談役2名、顧問3名）

役 職	氏 名
代表理事	鈴木 克徳
副代表理事	浅井 孝司、池田 満之
理事	浅井 孝司、浅野 亮、池田 満之、金澤 裕司、小玉 敏也、新海 洋子、鈴木 克徳、新名 阿津子、福井 光彦、増田 直広、松田 剛史、松田 直子、三宅 博之、安田 昌則
監事	浅見 哲、吉岡 陸子
相談役	阿部 治、重 政子
顧問	池田 香代子、岡島 成行、高木 幹夫

役員役割

役 割	氏 名
組織運営委員*	代表理事・副代表理事、その他代表理事が指名する者
総務・労務・経理担当理事	浅井 孝司、池田 満之
広報担当理事	新名 阿津子、福井 光彦、松田 直子
人材育成事業	浅野 亮、池田 満之、小玉 敏也、金澤 裕司、増田 直広、松田 剛史、安田 昌則
政策提言事業	浅井 孝司、新海 洋子
国際連携事業	鈴木 克徳、三宅 博之 会員：岩本 渉さん、宇賀神 幸恵さん
地域担当理事	【北海道】金澤 裕司、松田 剛史【東北】浅野 亮 【関東】増田 直広、小玉 敏也 【東海・北陸】新海 洋子 【近畿】松田 直子 【中国】池田 満之 【四国】新名 阿津子

【第 1 号議案】

役 割	氏 名
	【九州・沖縄】三宅 博之、安田 昌則
相談役	阿部 治、重 政子
監事	浅見 哲、吉岡 睦子
顧問	池田 香代子、岡島 成行、高木 幹夫

事務局

役 割	氏 名
事務局長	横田 美保
事務局スタッフ	齋藤 さおり、後藤 奈穂美（2024年9月末まで）

2 組織基盤強化に向けた横断的活動

組織基盤強化に向けた検討成果を取りまとめ、2024年度総会に提出し、了承された。報告の主なポイントは、理事体制の強化と会員とのコミュニケーションの充実である。

＜2024年度の会員数＞

総数132（昨年度から25会員減少）（かつこ内は前年度の会員数）、±差異を表示

種 類	会員数	種 類	会員数	種 類	会員数
団体正会員	33 (34) -1	団体準会員	8 (9) -1		
個人正会員	41 (44) -3	個人準会員	50 (61) -11		
賛助会員	3 (3) ±0	特別賛助会員	1 (1) ±0	連携交流団体	5 (5) ±0

3 広報活動

2024年度の広報活動としては、上述の通りオンラインセミナーを開催し、地方のESD/SDGsの取り組み、ホットトピックの情報の発信・参加者間の情報交換、ESD-Jのファンづくりに努めた。ウェブサイトの改定作業を継続し、より魅力的な情報発信に努めた。

（1）効果検証に基づく情報発信の強化

ESD/SDGs活動の推進のための情報提供、ESD推進ネットワークの強化に向けた会員の維持・拡大を目指し、メーリングリストの投稿数219件うち、ESD-J関係者による国際情報は約50回、メルマガ投稿約30回、それ以外は、ESD-J理事による投稿、並びに会員からの投稿であった。加えてウェブサイト、SNSを活用した情報発信・広報ツールの強化、ニュースレターの定期発行（年2回）等による会員等への情報発信を行った。

VII 会議等の実施

会議名	開催日	開催方法
＜総会＞	2024年6月22日（土）	電磁的方法で開催
＜理事会＞ 第1回理事会 第2回理事会 第3回理事会	2024年5月25日（土） 2024年10月22日（火） 2025年2月5日（水）	原則、電磁的方法で開催
＜理事懇談会＞ 第1回理事懇談会 第2回理事懇談会 第3回理事懇談会 第4回理事懇談会	2024年4月6日（土） 2024年7月30日（火） 2024年9月19日（木） 2024年12月20日（金）	

【第1号議案】

VIII 参考資料

1 協賛・後援名義の実績

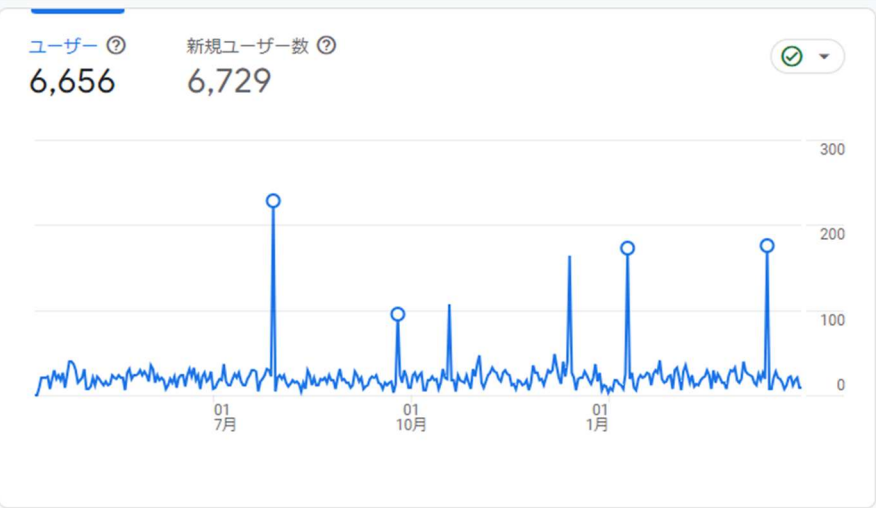
No.	種類	団体名	イベント・企画名
1	後援	COLOMAGAプロジェクト	子どもローカルマガジンプロジェクトCOLOMAGA 各地域版制作活動、及び「COLOMAGA サミットvol.4」開催
2	後援	令和6年度SDGs キャンパス・ミーティング	令和6年度SDGs キャンパス・ミーティング
3	共催	気仙沼市教育委員会	気仙沼ESD/RCE円卓会議2024
4	後援	麴町納税貯蓄組合連合会	税で考える週間シンポジウム「納税で持続可能な日本に」
5	後援	公益社団法人日本環境教育フォーラム	清里ミーティング2024
6	後援	ガールスカウト日本連盟	コミュニティアクション チャレンジ 100 アワード
7	後援	四国地方ESD活動支援センター	四国ESDフォーラム2025
8	後援	キープ協会	第17回つなぐ人フォーラム
9	後援	成蹊学園サステナビリティ教育研究センター	ESD成蹊フォーラム2025

2 2024年度 ESD-J理事の講師派遣等実績の要旨

活動内容	件数	受益者数
講演・講義	28	1,035
委員会委員	30	2,540
その他（イベント・ワークショップ実施、視察対応、研修会の運営、シンポジウム等の参加及びコーディネート、指導助言等）	57	7,629
合 計	115	11,204

3 Google Analyticsによるウェブサイトの分析結果（データ分析期間：2024年度）

(1) 訪問ユーザー数¹・セッション数²



- ① ユーザー数は、約1.3万人（前年度6,656ユーザー）で昨年度より2倍程度に増加した。
- ② セッション数は、14,971回（前年度 8,384回）で昨年度より1.5倍以上に増加した。

1 ユーザー数：指定した集計期間において、サイトへの訪問した人数から重複を除いたもの。
2 セッション数：ユーザーがサイト訪問した回数を意味し、別名「訪問数」とも呼ぶ。

【第1号議案】

③ 平均セッション時間は、1分3秒（前年度 1分38秒）で昨年度より若干短くなった。

(2) アクセスユーザーの属性

① ユーザーの国は全ユーザー12,907のうち、7,717（59.8%）日本、3,453（26.75%）アメリカ、以下は中国、ドイツ、台湾、インド、シンガポール、韓国、ロシア等が数パーセントだった。

(3) 閲覧数の多いページ

1年間のアクセス数が多かったページは下記の通り。

	ページ内容	表示回数
1位	全体	24,664
2位	ESD-Jトップページ	7,206
3位	第2回ESDトーク 鈴木大輔さん	2,212
4位	SDGsの17のゴール	1,409
5位	ESD-J理事・事務局紹介	1,110
6位	団体概要 代表挨拶	720
7位	ESD-Jとは	551
8位	ESDとは	520
9位	6/1日本・台湾小中学校ESD/環境教育シンポジウム	502

4 Facebook Insightからの集計情報

(1) 年間投稿数

累計のフォロワーは2,266名（前年：2,270人）、45～54歳、その次に55歳～64歳のフォロワーが多く、若い世代のフォロワーは少ない。フォロワーが多い地域は、横浜市、東京都世田谷区、名古屋市、岡山市、川崎市、京都市、大阪市、仙台市、東京都新宿区等である。

今年度の閲覧数5,077件、リーチ数は2,487人（前年より約30%減）であった。コンテンツでのインタラクションは285件（前年比約60%減）、リンククリックは43件で（前年比約50%減）、新規フォローは22人（前年比10%増）だった。新しい情報を投稿する頻度が前年度よりも減ったためにリーチ数、並びに情報のリンクをクリックする回数が減少したと思われる。

